

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 3 月 6 日

事業所名 児童デイサービスまはろ宮野湾伊佐

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	4	3		活動内容や人数に応じ 活動するスペースを区 分けている。	環境整備を行い、区分けスペースを広げて いきたい。
	2	職員の配置数は適切である	2	3	2		療育や送迎を効率化していくためにスタッフ を増やしていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	4	2	1		現在該当児童無し。受け入れがあった際に は環境整備を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	6	1			チャットワークも活用し、しっかりと情報の共 有に努めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	7				結果をもとにスタッフ会議で改善策を検討し 実施していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	7				公開された旨をスタッフへもしっかり周知して いく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	5	2		他事業所、本部と 定期的にPDCAを 実施している。	不定期に本部の意見を煽る。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	6	1			研修に参加できなかったスタッフに対しフォ ローしていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	6	1			日々のPDCAを実施していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	6	1			チャットワークも活用し、しっかりと情報の共 有に努めていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい る	6	1			課題活動内容等、スタッフ同士パートナーを組んで組 み立てていき、全体で話し合いが持てるようにしてい く。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	6	1			保護者、児童にアンケートをとり、出来るだけ外 出の機会も多く取り入れていけるようにしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	7				感染症対策をしていききめ細やかな課題設 定が出来るように努めていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	7				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	3	4			朝礼で確認しあっても共有できていないことがあ るため、朝礼にて支援内容や役割分担について しっかり話し合っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	2	3	2		チャットワークを活用し気付いた点等をしっ かり共有、支援に繋げていけるよう務める。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	1		チャットワークも活用し、しっかり記録として 残せるよう改善していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイ サービス計画の見直しの必要性を判断して いる	7				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	6	1			ガイドラインについて全スタッフが共通理解 できるよう話し合っていく。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	7				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	6	1			積極的な情報収集に努めていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	4	2	1		現在該当児童無し。受け入れがあった際には速やかに連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	3	2	2		特に新1年生に対し徹底していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	3	2	1		現在該当児童無し。該当児童がいる場合にはまはろでの様子を提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	3	4			助言や研修を出来るだけ多くのスタッフが受けられるようにしていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	2		5		感染症予防をしていながら交流を持てる 課題活動を組んでいく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	3	3	1		管理者は月1回以上会議に参加している。 会議録などを用いスタッフへも情報共有し ていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	7				実績表への記入、送迎時の申し送り等で行っ ている。必要に応じて電話やメールでの情報共有 をしていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	3	1	3		保護者会を設け、その中でペアレント・トレ ーニングを実施できる機会を作っていきたい。	
保護者への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	7				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	7				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	2	3	2		感染症予防を徹底し、定期的に開催でき るようにしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	7				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	7				
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	3	2	2		感染症予防を徹底し、開催できるようにし ていきたい。イベントの企画を計画していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1		緊急時マニュアルを保護者向けに作成。各家庭に持たせている。	スタッフで共通理解できるよう話し合っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2			やむを得ず身体拘束をしなければならない該当児童が出た際は、保護者への説明をしっかりと行い同意書を頂き徹底して記録を作成する。また、個別支援計画書へもしっかり記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	1	食物アレルギーのある児童は表にして掲示している。	万が一アレルギー発作が起きた時の対処方法をしっかりと確認し、医師からの指示があればコピーを頂く。または、医師からの指示を頂く。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7				